

2015年3月期 第1四半期決算説明会

2014年7月31日
TDK株式会社

◆2015年3月期 第1四半期連結業績概要

執行役員 桃塚 高和

◆記録デバイス事業について

専務執行役員 小林 敦夫

◆高周波部品事業について

専務執行役員 植村 博之

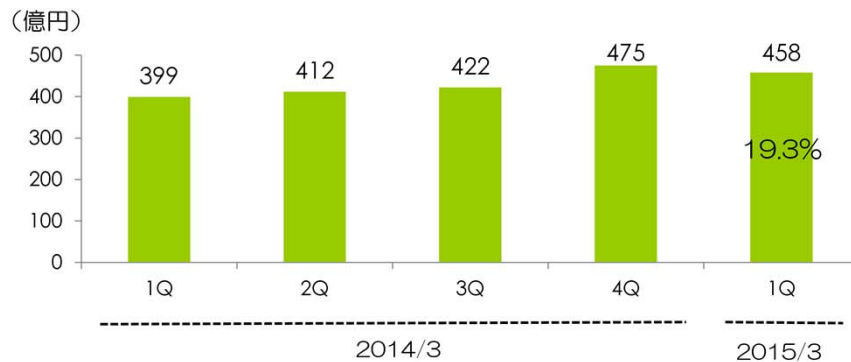
2015年3月期 第1四半期連結業績概要

執行役員
桃塚 高和

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved. 2015年3月期 第1四半期決算説明会 TDK株式会社 2014年7月31日 - 3 -

桃塚でございます。本日はご多忙のところ、当社2015年3月期第一四半期連結決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。それでは私から業績内容についてご説明いたします。

- ◆営業利益は前年同期から倍増。
- ◆受動部品の収益大幅改善。営業利益は磁気応用製品を超えて四半期ベースでは過去最高。自動車及び中国スマホ市場向け販売が好調に推移。
- ◆自動車向け売上は、全社売上の19.3%（前年同期比15%増）。



Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日

- 4 -

まずこの第1四半期の決算のポイントでございますが、営業利益につきましては、前年度期から倍増いたしました。特に、受動部品の収益が大幅に改善したということで、営業利益が78億円となり、磁気応用製品の営業利益を超えて四半期ベースでは過去最高になっております。これによって第1四半期の全社の業績を牽引した形になりました。特に自動車及び中国スマホ向け市場向けの販売が好調に推移しております。また、自動車向けの売上げが、全社売上げの19.3パーセントに達しております。前年度比では約15パーセントの増加となっております。

2015年3月期 第1四半期連結業績概要



(億円)	2014年3月期 第1四半期	2015年3月期 第1四半期実績	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	2,344	2,375	31	1.3
営業利益	45	96	51	113.3
営業利益率	1.9%	4.0%	+2.1pt	-
継続事業税引前利益	52	104	52	100.0
継続事業純利益	15	63	48	320.0
非継続事業純利益	△ 4	-	-	-
非支配持分利益	7	5	△ 2	-28.6
当期純利益	4	58	54	-
1株当たり利益	2円96銭	45円73銭	-	-
為替	対ドルレート	98円74銭	102円17銭	3.5%の円安
	対ユーロレート	128円96銭	140円17銭	8.7%の円安
為替変動による 影響金額	売上高：約58億円の増収 営業利益：約10億円の増益			

(注) 2014年3月期に非継続となったデータテープ事業及びブルーレイ事業に係る数値を組替え再表示しております。

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

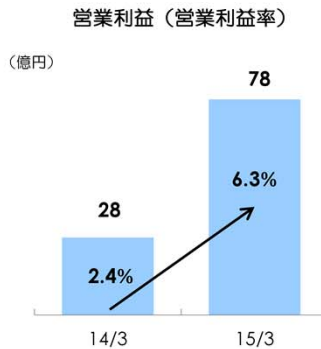
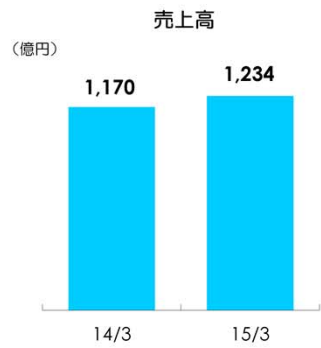
2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日

- 5 -

第1四半期の業績概要ですが、まず前期データテープ事業、またブルーレイ事業にかかわる損益は非継続事業として表示しておりますが、当期第1四半期におきましては非継続事業はございません。売上高ですが、2,375億円、前年同期比31億円、1.3パーセントの増収となりました。営業利益が96億円、前年同期比51億円、2.1倍の増益となっております。営業利益率は、2.1ポイント改善しました。税引前利益は104億円となり52億円増益。当四半期純利益は58億円となり54億円増益となっております。この結果、一株当たり利益は45円73銭です。当期の平均為替レートでございますが、対ドルでは102円17銭、3.8パーセント円安。対ユーロで140円17銭、8.7パーセントの円安となりました。この結果、為替変動による影響額ですが、売上高で約58億円の増収、営業利益で約10億円の増益となっております。為替の感応度につきましては、前回ご説明させていただいておりますように、円とドルの関係におきまして1円の変動で営業利益が約14億円影響すると試算しております。



売上高 1,234億円（前年同期比5.5%増）
営業利益 78億円（前年同期比2.8倍）

●セラミックコンデンサ

- ・全体売上の約半分を占める自動車市場を中心に前年同期より増加
- ・新製品の売上増や生産性改善効果により利益率も改善

●インダクティブデバイス

- ・全体売上の約4割を占める自動車市場向け売上が前年同期より増加
- ・品種構成の良化により利益拡大

●高周波部品

- ・競争力のあるディスクリット製品の販売堅調（SAW、温度補正SAW、BAW、積層フィルター）
- ・事業全体の損益も前年同期より改善

●圧電材料部品

- ・カメラモジュール用VCMや自動車向け部品の販売を中心に前年同期比増収増益

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日

- 6 -

つづきまして、第一四半期セグメントの状況についてご説明いたします。まず、受動部品事業ですが、売上高が1,234億円、前年度比5.5パーセント増。営業利益が78億円、前年同期比2.8倍となっております。全体として自動車、中国スマホ向けですね、販売が特に好調でした。セラミックコンデンサーにつきましては、全体の売上げの約半分を占めております自動車市場を中心に増加しました。新製品の売上増や生産性改善効果によって利益率も大幅に改善しております。

インダクティブデバイスにつきましても、売上げの4割を占める自動車市場向けが前年同期より増加しました。また、品種構成の良化によって利益が拡大しております。

高周波部品は、競争力のある高周波部品のディスクリット製品の販売が、中国市場向けを中心に堅調に推移しました。それにより、事業全体の損益も前年度比よりは大幅に改善しております。

圧電材料部品につきましては、中国スマホ向け用カメラモジュール用のVCM、また自動車向け部品が前年同期より拡大し、前年同期比増収増益を達成しております。



売上高 871億円（前年同期比1.0%増）
営業利益 71億円（前年同期比54.3%増）

●記録デバイス（HDDヘッド）

- 出荷数量は前年同期より減少も、生産性改善効果や品種構成の良化により前年同期より増益

●マグネット

- 前年同期発生したフェライトマグネットの拠点集約費用がなくなったこと及び設備稼働率の向上により前年同期より赤字が大幅に縮小。（第4四半期からも収益改善）

●電源

- 半導体製造装置、FA機器、計測機器等の産業機器市場向け売上は、前年同期比で約2割増加。
- 黒字転換。

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

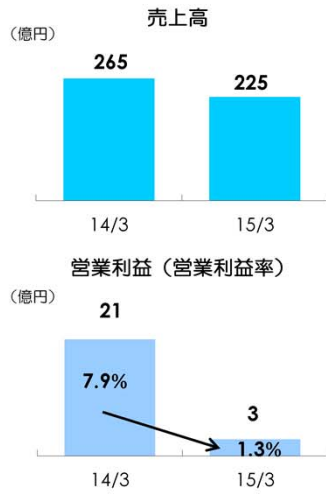
2014年7月31日

- 7 -

次に、磁気応用製品の事業でございますが、売上高が871億円、前年度比1.0パーセント増、営業利益が71億円、前年度比54.3パーセント増になっております。記録デバイス（HDDヘッド）ですが、出荷数量は前年度比よりも減少しておりますが、生産性の改善効果、固定費削減等また品種構成の良化によって、前年同期よりも増益となっております。

次に、課題事業でもありましたマグネットは、前年の第1四半期は中国の拠点集約等で費用がかなりかかっていたわけですが、今期はそういうものはなくなったこと、また設備の稼働率が向上してきたことによって、赤字が大幅に縮小して改善しております。次に、電源事業。半導体製造設備、FA機器等、産業機器市場向けの売上げが、前年同期比で約2割増加しているということで、事業としてこの第1四半期に黒字転換を果たしております。

第1四半期各事業の状況（フィルム応用製品事業）



売上高 225億円（前年同期比15.1%減）
営業利益 3億円（前年同期比85.7%減）

●エナジーデバイス（二次電池）

- ・主要顧客向け新機種販売前の生産調整により前年同期比減収減益。

次に、フィルム応用製品事業でございますが、こちらは大部分がエナジーデバイス、二次電池でございますが、売上高225億円、前年同期比15.1パーセント減、営業利益が3億円、前年同期比85.7パーセント減と減収減益となっております。特に二次電池ですが、主要顧客向けの新機種販売の前の生産調整によって大幅に減収減益になったというところが大きな特徴です。ただし、新機種向けの出荷につきましては、7月から想定通りきちんと始まっておりまして、第2四半期については、大幅に出荷が増加が見込まれる予定であります。

セグメント別四半期実績



(億円)		2014年3月期 第1四半期 (A)	2014年3月期 第4四半期 (B)	2015年3月期 第1四半期 (C)	対前年同期比増減 (C) - (A)		対直前四半期増減 (C) - (B)	
					増減	増減率(%)	増減	増減率(%)
売上高	コンデンサ	337	361	365	28	8.3	4	1.1
	インダクティブデバイス	350	349	367	17	4.9	18	5.2
	その他受動部品	483	471	502	19	3.9	31	6.6
	受動部品合計	1,170	1,181	1,234	64	5.5	53	4.5
	記録デバイス	602	612	591	△ 11	△ 1.8	△ 21	△ 3.4
	その他磁気応用製品	260	283	280	20	7.7	△ 3	△ 1.1
	磁気応用製品合計	862	895	871	9	1.0	△ 24	△ 2.7
	フィルム応用製品合計	265	291	225	△ 40	△ 15.1	△ 66	△ 22.7
	その他	47	58	45	△ 2	△ 4.3	△ 13	△ 22.4
	合計	2,344	2,425	2,375	31	1.3	△ 50	△ 2.1
営業利益	受動部品	28	3	78	50	178.6	75	-
	磁気応用製品	46	54	71	25	54.3	17	31.5
	フィルム応用製品	21	11	3	△ 18	△ 85.7	△ 8	△ 72.7
	その他	△ 8	△ 8	△ 4	4	-	4	-
	小計	87	61	148	61	70.1	87	142.6
	全社および消去	△ 42	△ 45	△ 52	△ 10	-	△ 7	-
	合計	45	17	96	51	113.3	79	464.7
営業利益率		1.9%	0.7%	4.0%	+2.1pt	-	+3.3pt	-
為替	対ドルレート (円)	98.74	102.97	102.17				
	対ユーロレート (円)	128.96	141.12	140.17				

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日

- 9 -

主要3セグメントの業績は只今ご説明したとおりでございますが、その他の製品につきましては、売上げ45億円、前年同期比2億円、4.3パーセントの減収となっておりますが、営業利益については前年の8億円の赤字から4億円の赤字と改善しております。全社消去については、前年の42億円のマイナスから52億円のマイナスへ損失が増加しております。これは、研究開発費用及びシステム投資関連費用の増加によるものです。あと、当第1四半期の構造改革費用は3億円で、前年の7億円から4億円減少しております。

つづいて、前期第4四半期(以下4Q)からこの今期第1四半期にかけての売上利益についてご説明いたします。4Q営業利益17億円には継続事業での金額として約66億円の構造改革費用が含まれております。

それでは、セグメント別ですが、まず受動部品の売上げは先期から53億円、4.5パーセント増加しております。コンデンサの売上は、4Qから4億円、1.1パーセント増加。特に自動車市場向け、産業機器市場向けが堅調に推移しました。インダクティブデバイスの売上は、4Qから18億円、5.2パーセント増加。需要が旺盛な中国スマホ向けを中心に通信機器市場向けの販売が大きく伸びております。次、その他受動部品の売上げですが、4Qから31億円、6.6パーセント増加しております。インダクティブデバイス同様、旺盛な中国スマホ向け需要によって高周波部品、カメラモジュール用VCMの売上げが伸びております。受動部品の営業利益は、4Qの3億円から75億円増加し、78億円となっております。4Qには、構造改革費用約15億円が含まれております。自動車市場向けの販売が堅調に推移したこと、また、中国スマホ向けの旺盛な需要の恩恵もあり、各製品の稼働も回復したことにより増益となっております。特に、高周波部品につきましては、収益性の高いディスクリートの販売が伸びて、大幅に収益が改善しております。

次に、磁気応用製品セグメントですが、4Qから24億円、2.7パーセント減少しました。記録デバイスの売上げは、4Qから21億円、3.4パーセント減少、HDDドライブメーカーの期末調整等の影響ございまして、HDDヘッドの出荷数量が若干減少しております。その他磁気応用製品の売上げは、4Qからほぼ横ばいになっております。磁石、電源の主要市場であります自動車、産業機器市場は堅調に推移しております。磁気応用製品の営業利益ですが、4Q54億円から17億円、31.5パーセント増加し71億円となっております。4Qに発生いたしました構造改革費用、約18億円がなくなったことが主要因となっております。

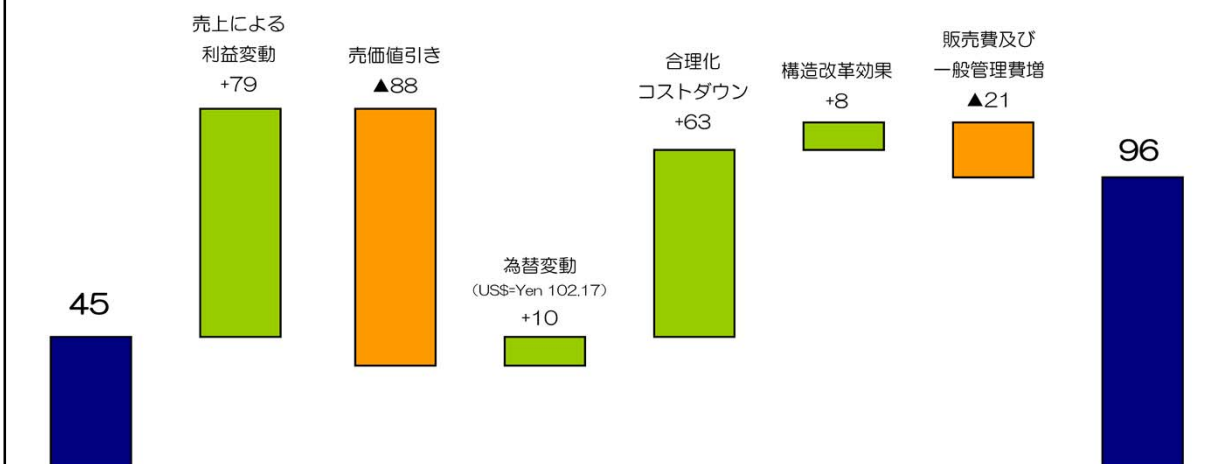
フィルム応用製品ですが、売上は、4Qから66億円、22.7パーセント減少。主要顧客の新機種発売前の生産調整等の影響で二次電池の販売が減少しております。営業利益は、4Qの11億円から8億円、72.7パーセント減少して3億円となっております。このフィルム応用製品の4Q実績には構造改革費用約23億円が含まれております。

2014年3月期
第1四半期
45億円

営業利益 +51億円

2015年3月期
第1四半期
96億円

(単位：億円)



Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

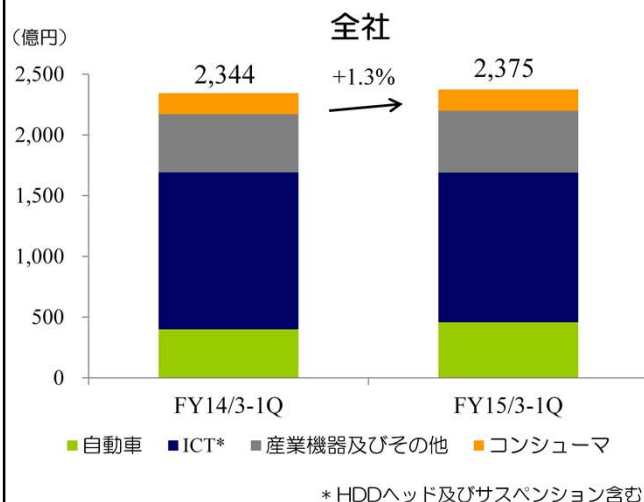
2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日 - 10 -

つづいて、営業利益の増減分析になります。51億円の増益の要因ですが、まず、操業度、品種構成の要因等を含んだ売上げの増加による利益の変動で約79億円の増益要因となっております。受動部品の販売が車載及び中国スマホ向け中心に増加して、プロダクトミックスも改善したことが増益要因となっております。また、マグネットにおきましては、前年の中国生産拠点集約に伴う操業度低下の要因がなくなったことも増益要因となっております。売価下落としましては、約88億円の減益要因。円安による為替影響ですが、約10億円の増益となっております。合理化コストダウンでは、中国地区はまだ引き続き賃率のアップによって減益要因等ございますが、HDDヘッド等の生産性改善、合理化が進んでいることや原材料値下げ等により、全体で約63億円の増益要因となっております。構造改革効果としては、約8億円の増益。販売費一般管理費の増加につきましては、約21億円の減益要因となっております。

重点分野別の売上



自動車：

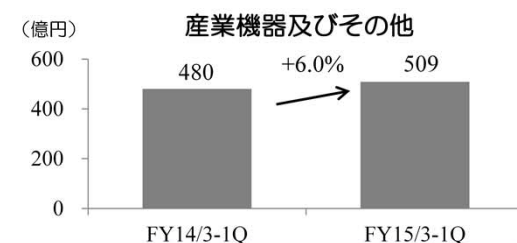
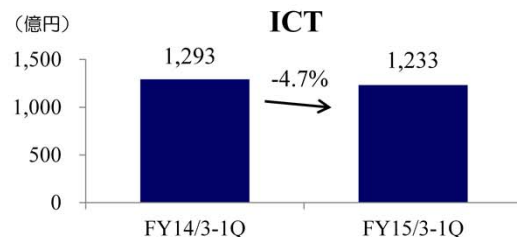
受動部品の売上拡大

ICT（情報通信技術）：

通信機器（スマホ）向け二次電池減少

産業機器及びその他：

産業機器向け電源、受動部品販売好調



Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日 - 11 -

次に、重点分野別の売上げについて説明いたします。まず自動車向け売上げにつきましては、北米市場及び中国市場において販売が堅調に推移した結果、14.9%増加し、458億円となっております。特に受動部品の売上げが拡大しています。インダクティブデバイス、コンデンサ他、全ての製品において増加しております。次に、ICT、情報通信技術のところですが、中国スマホ向けの高周波部品やインダクティブデバイス等の販売は好調でしたが、主要顧客向けの二次電池の販売が遅れたことによる影響で、全体では4.7%の減少となっております。次に産業機器その他ですが、産機向けの電源、また受動部品の販売が好調で約6%増加となっております。

第2四半期の売上高増減イメージ



(億円)

セグメント 区分	2015年3月期 1Q実績	2015年3月期 2Q予想 (対1Q)	主な要因・予想の前提
受動部品	1,234	+7%~+8%	ICT市場向け（特に通信機器市場）及び 自動車市場向け各種製品の販売拡大
磁気応用製品	871	±0%	HDD市場の成熟化
フィルム 応用製品	225	+40%+ α	ICT市場向け二次電池の販売増 (主要顧客の新機種立上げに伴う販売増)
その他	45		
合計	2,375	+7%~+9%	

為替前提

為替レート \$/Yen 102.17
為替レート EURO/Yen 140.17

100.00
135.00

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1 四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日 - 12 -

次に、この7月～9月、第2四半期ですね、売上高の増減のイメージをご説明いたします。まず受動部品ですが、第1四半期の1,234億円から7%から8%の増加を予想しております。特に、ICT市場向け及び自動車市場向けで、製品の販売が拡大していくと見ております。次に、磁気応用製品につきましては、第1四半期871億円からほぼ横ばい。HDD市場は成熟化ということで、全体としては横ばいで見ております。次に、フィルム応用製品。第1四半期225億円と低調だったわけですが、この第2四半期から出荷が大幅に増えてまして、約40%+αの水準を見ております。特に、スマホ向けの二次電池の販売増を見込んでおります。その結果、合計としては第1四半期2,375億円に対して、7%から9%の増加を第2四半期に見ております。

2015年3月期 連結業績予想及び配当金見通し



期初公表値（4月28日）から変更なし

(億円)		2014年3月期 通期実績	2015年3月期 業績予想	対前年同期比	
				増減	増減率(%)
売上高		9,845	10,500	655	6.7%
営業利益		366	570	204	55.7%
営業利益率		3.7%	5.4%	+1.7pt	-
継続事業税引前利益		398	560	162	40.7%
当期純利益		163	340	177	108.6%
1株当たり利益(円)		129.47	270.23	-	-
配当金(円)		上期：30円（実績） 下期：40円（見通し） 年間：70円（見通し）	上期：40円 下期：40円 年間：80円	-	-
為替	対ドルレート	100円26銭	100円	-	-
	対ユーロレート	134円42銭	135円	-	-

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日 - 13 -

つづきまして、通期の連結業績予想でございますが、前回4月に発表させていただいた見通しから変更はございません。売上高1兆500億円、営業利益570億円、税引前利益560億円、当期純利益が340億円としております。先に、第2四半期の売上げのイメージについてはご説明させていただきましたが、下期以降につきましても自動車市場向けが堅調に推移していく、また中国市場のスマートフォン向けに受動部品が引き続き伸びていく見通しでございます。また、二次電池につきましても、期初想定通り、中国顧客向けの売上げが増加するとともに、新しい顧客への拡販によってビジネスを拡大していく所存です。第2四半期以降の平均レートですが、対米ドルで100円。対ユーロにつきまして135円を前提としております。以上で、私からの説明とさせていただきます。どうもありがとうございました。

記録デバイス事業について

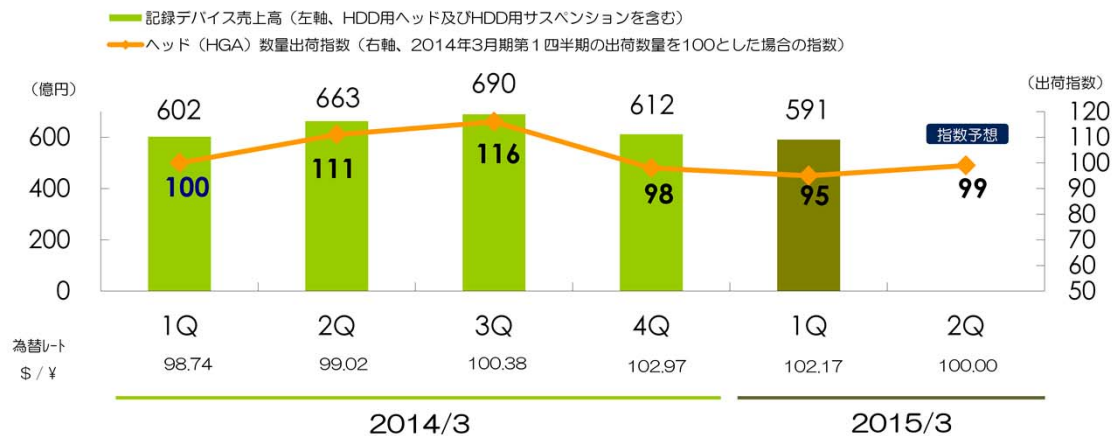
専務執行役員
小林 敦夫

記録デバイス事業についてご報告いたします。

◆直近のHDD（ハードディスク）市場

- ・2014年3月期（前期）：約5.52億台（通期決算説明会時推定）
- ・2015年3月期（今期）：約5.35億台（通期決算説明会時想定）
- ・2015年3月期（今期）：約5.52億台（現在想定、前回より1,700万台増加）

◆当社のHDDヘッド出荷指数推移



まず、直近のHDD、ハードディスクの市場に関する当社の見方についてですが、2014年3月期（前期）は、5億5200万台と推定している中、今期2015年3月期については、通期決算説明会時点での想定が、5億3500万台であったのに対し、今回5億5200万台に見直しをしております。ニアラインの動きは想定より鈍いものの2.5インチのゲーム機向け、またPC向けが若干想定より上振れしています。また、同じくWindows XPのリプレースもプラス要因ということで、前回の見通しよりも1,700万台増加ということで現在は見ております。当社のHDDヘッドの出荷指数の推移につきましては、2014年3月期の1Qを100といたしまして、100、111、116、98、今期2015年3月期の1Qにつきましては、95、2Qの見込みにつきましては現時点では99と見ております。

中長期のHDD市場

市場内のアプリケーションの変化



HDD1台あたりのヘッド数量の変化



世界唯一のHDDヘッド専門メーカー。
業界の最先端品（世界最高の記録密度）
を継続的に市場に投入できる研究開発力と
製造能力を保有

- 需要が拡大するデータセンタ向けHDDは
今後も記録容量の増大が必須。これに伴い
HDD当たりのヘッド使用量も増加。
- エンタープライズやニアライン等のデータセンタ
市場は、継続的に最先端品が投入される市場
⇒**TDKが貢献できる市場**
- 新製品の投入

今後も新しい製品を投入!

熱アシスト
ヘッド

次世代
読込ヘッド

マイクロDSA

**中長期的にも記録デバイス事業
全体として安定的な収益を実現**

次に、記録デバイス事業の中長期の見方について説明させていただきます。これは何度も申し上げていることですが、中長期のHDDの動きにつきましては、市場内アプリケーションの変化ということで、PCの需要は減少する一方で、データセンター向け需要が増加する見込みです。それによりHDD1台当たりのHDDヘッドの員数というのは、ノートパソコン向けであれば、現在大体1枚ディスクの2本ヘッド、もしくは1本ヘッドということになるんですが、これが、データセンター向けについてはHDD1台で6本～14本に増加する流れになってくると考えています。我々TDKは、世界唯一のHDDヘッド専門メーカーということで最先端の製品、これは記録密度を高く維持すること、これを継続的に市場に投入できる研究開発力と製造能力を保有しております。需要が拡大するデータセンター向けHDDは今後もですね、記録容量の増大が必要となってきます。これに伴ってHDDヘッドの使用量も暫時増加してくると思っています。エンタープライズやニアライン等のデータセンター向け市場は、継続的に先端品が投入される市場になりますので、当社が今後も貢献できる市場と考えています。新製品につきましても、熱アシストヘッドですとか、次世代の読み取りヘッド。それからサスペンションではマイクロデュアルステージアクチュエーター等を投入していき、中長期的にも記録デバイス事業全体として安定的な収益を実現していきたいと考えております。ありがとうございます。

高周波部品事業について

専務執行役員
植村 博之

高周波事業の現状についてご報告いたします。

ターゲット市場

市場環境

活動状況



- TD-LTE開始⇒4G端末生産急増
- 3→5モード化で員数増加

リファレンスデザインによる
刈取り、置換えの活動強化

ディスクリート製品の受注販売急増
(SAW, TC-SAW, BAW, 積層フィルタ)



- スマホ中心のハイエンド機種や
タブレット端末の生産低調

モジュール製品の新規承認取得済み
既存モジュール製品のシェアアップ

2Q以降は主要顧客生産動向がポイント
No.2顧客への販売拡大



- 新機種発売前の生産調整
→2Qより新機種立上げ

モジュール製品の新規受注開始
PAモジュール向け拡販強化

ディスクリート製品、モジュール製品
2Qより販売拡大

Copyright© 2014 TDK Corporation. All rights reserved.

2015年3月期 第1四半期決算説明会

TDK株式会社

2014年7月31日 - 18 -

ご存じのように、高周波部品の関連市場は、中国、韓国、米国の三つが大きな市場になっております。市場環境につきましては、中国は、ご存じのようにTD-LTEの4G化が進んでおり、端末の生産が増えています。3モードから5モードの機種が増えると、員数増加がさらに見込まれるというような状況にあります。そのお陰で、当社が今までやってきましたICメーカー様のリファレンスデザインにおいても徐々に成果が出てまいりまして、ディスクリート製品を主体に販売が伸びているという状況にあります。特にSAWフィルター、BAWフィルターや積層のフィルターが想定以上に注文をいただいているという状況にあります。

次に韓国につきましては、モジュール製品について何点か承認を得まして注文に結びついております。残念ながらタブレットのほうは、若干計画に届いておらず、影響を受けている状況にあります。ここもいくつかモジュールがあるんですけども、今後新規のモデルも立ち上がる中で、新規の注文を見込んでおります。資料に書いてありますNo.2のお客様のほうも、高シェアにより、多くの注文をいただいております比較的確調に進んでおります。一般的には韓国系のメーカー様の若干下振れのお話が出ておりますが、残念ながら当社は、前期までモジュールについてはシェアが低かったものですから、そういった意味ではそちらのほうの影響は少ないと見ております。

最後に、北米のお客様のほうですけれども、これはご存じのように2Q後半から生産が立ち上がってくると考えております。新機種発売前の生産調整は若干ありましたけれども、今後ですね、PAメーカー様向けへの拡販も強化しておりますので、ディスクリート製品、モジュール製品の注文が2Qの後半から増えてくると見込んでおります。

事業戦略

- ◆ ICメーカーへの活動強化し、リファレンスシェア拡大
- ◆ 競争力あるディスクリート製品群を更に強化し、市場シェア拡大
- ◆ 小型パッケージ製品の開発、投入により、モジュールの市場シェア拡大
- ◆ 生産性改善の継続

事業の戦略は、以前からお話しておりますように、一つはICメーカー様への活動を強化し、リファレンスデザインでのシェア拡大を図っていく方針は変わっておりません。ICメーカー様とのコラボレーションを強化して、さらなる成果に結びつけるかということについては引き続き検討しております。次に、競争力あるディスクリート製品をさらに強化して市場シェアを拡大していきたいと考えております。また、新製品において小型のパッケージ製品の開発・投入によって、モジュールでの市場シェアの確保、拡大も同時に図っていききたいと考えております。あとは、生産性改善も足元で順調に進んできておりますので、さらに成果に結び付けていきたいと考えております。以上、簡単ですが、ご報告いたします。

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2015/1q_1.htm